

国家的に重要な研究開発
「エクサスケール・スーパーコンピュータ開発プロジェクト」(文部科学省)
の事前評価について

平成 25 年 11 月 20 日
評価専門調査会事務局

1. 評価対象の概要

<研究開発概要>

第四期科学技術基本計画で国家基幹技術とされている世界最高水準のスーパーコンピュータを国として戦略的に開発・整備し、科学技術振興、産業競争力強化、安全・安心の国づくり等を実現する。具体的には、様々な社会的・科学的課題の解決に資する計算性能1エクサフロップス(「京」の約100倍)レベルのスーパーコンピュータの開発・整備及びそれを活用するためのアプリケーション開発を行い、平成32年(2020年)頃までに運用を開始する。

<実施期間> 平成26年度～平成31年度

<予算額> ○概算要求額： 30億円(平成26年度)

○開発・製造費： 約1200億円

2. 評価方法

<評価検討会の設置>

評価に必要な調査・検討を行うため、評価専門調査会の有識者議員、専門委員に、外部より当該分野の専門家・有識者の参加を得て、評価検討会を設置した。当該分野の有識者の選任には、評価専門調査会会長がその任に当たった。

<検討会メンバー>

	久間 和生	総合科学技術会議 議員
	原山 優子	総合科学技術会議 議員
《座長》	白井 俊明	評価専門調査会 専門委員
	相澤 彰子	評価専門調査会 専門委員
	射場 英紀	評価専門調査会 専門委員
招聘者	木槻 純一	三菱電機株式会社 開発本部 開発業務部長
	高井 昌彰	北海道大学 情報基盤センター長
	富田 眞治	京都大学物質-細胞統合システム拠点特定拠点教授
	西島 和三	持田製薬株式会社 医薬開発本部専任主事
	古村 孝志	東京大学大学院情報学環総合防災情報研究センター教授

(敬称略)

<調査・検討項目等>

評価検討会においては、(1)の依頼項目について文部科学省から説明を受け、(2)の調査・検討項目に係る基本的な項目に加え、評価対象事案に応じた評価の視点等を明示し、調査・検討を実施した。

(1)依頼項目

- ①名称：事業名、担当課室名等
- ②期間：事業の開始及び終了の年度
- ③予算：平成 26 年度予算概算要求の内容、事業実施期間における国費投入総額等
- ④目的：背景と目指す方向（科学技術上、社会・経済上での目的・意義について）
- ⑤戦略等における位置付け：アクションプラン等、当該分野に係る長期戦略等における位置づけ
- ⑥事前評価の実施状況とその内容
- ⑦事業内容：事業の実施方法（具体的なスキーム）、事業計画（線表）等
- ⑧目標：
 - ・研究開発期間終了時における具体的な達成目標や期待される成果
 - ・科学技術上、社会・経済上及び国益上の効果 等
- ⑨実施体制：実施機関・組織、推進委員会等（それぞれの役割、権限、責任）
- ⑩評価体制：委員会名簿、実施時期、実施状況、評価結果等
- ⑪その他：既存の事業との関係、連携に関する具体的な取組等

(2)調査・検討に係る基本的な項目

- A. 社会・経済上の意義
社会・経済上の目的・意義・効果等。
- B. 科学技術上の意義
科学技術上の目的・意義・効果等。
- C. 国際関係上の意義
国益上の意義・効果、国際貢献・役割分担等。
- D. 計画の妥当性
目標・期間・予算・体制・人材面等からの妥当性。
- E. 運営等

事前評価の実施状況、評価結果の反映の仕組み等。

3. 審議経過

- | | |
|-----------|---|
| 9月5日(木) | 評価専門調査会
・ 評価検討会の設置、スケジュールの確認等 |
| 10月10日(木) | 第1回 評価検討会
・ 文部科学省からの聴取、質疑、評価の視点に基づく討議
⇒ 追加質問事項をとりまとめ、文部科学省へ対応を依頼
⇒ 委員からの評価コメントに基づき評価の論点を整理 |
| 10月30日(水) | 第2回 評価検討会
・ 文部科学省からの追加質問事項に対する回答の聴取、質疑、評価の論点に基づく討議
⇒ 調査・検討結果のとりまとめ |
| 11月20日(水) | 評価専門調査会
・ 評価に係る調査検討結果の報告、評価結果原案の検討
⇒ 評価結果案のとりまとめ |
| 11月下旬目途 | 総合科学技術会議本会議
・ 評価結果案に基づく審議・決定 |

4. その他

評価検討会は非公開としたが、資料は公表に適さないとされた部分を除き検討会終了後に公表。また、議事概要については発言者による内容確認後に非公表情報、発言者の氏名を除き公表。